

環境保全のボランティア体験講座 2025 第5回講座レポート

第5回目の講座は、9月14日(日)に大阪府最北端にある能勢町で開催しました。

この日の受講生は13名。

弊社テナントビルの1階フロアで今日の資料の説明や班分けをしたあと、貸切バスに乗り込みました。



現地近くにバスが到着後、今回ご協力頂く「能勢みどりすとクラブ」のボランティア活動拠点の母屋まで坂道を15分ほど歩きました。

連日最高気温は35℃に迫る猛暑でしたが、運よく曇り空で暑さを感じにくい気候でした。



下の写真のように自然の山々と農作地の間を歩き進めますが、途中で見かける生きものたちに受講生の目が行き、その度に集まっていました。



早く到着したので少し休憩したのち、「能勢みどりすとクラブ」の上野さん(赤い帽子の方)より、団体設立の経緯や三草山の自然や保全についての説明がありました。



話されている横ではニホントカゲの綺麗な姿が見られ、この地域に存在する多様な生きものの生息状況に期待が膨らみます！



午前中はまず三草山の自然を知る為に山を登って視察しました。右下の写真にある山林内の石畳では、その説明がありました。大雨が降った後などは水が染み出て川になる場所で、2018年の台風時に荒れたので地元の学校の生徒さんたちをはじめ、ボランティアの方々が少しずつ横木を敷き、石を埋め込んで叩き、整備されたものになります。



右と下の写真は、ここ北摂地方に多い「台場クヌギ」と呼ばれる炭焼き文化を象徴する、特徴的な形をしたクヌギの木を説明している様子です。地上から 1.5m 程度のところで切るスタイルなのですが、近年炭焼き文化の衰退によりこういった木は年々少なくなってきました。



更に登っていくとゼフィルス森に到着しました。ゼフィルスとは、ミドリシジミチョウの仲間の世界共通の学名で、全国に 25 種類いるゼフィルスのうちこの森には 10 種類が確認されている貴重な場所となっています。



ここには昨年度の講座の時以降に、防鹿柵設置によりフェンスが張り巡らされているほか、上の写真中にある赤丸印の部分ように門も設置されて、工事が 3 月には完了しています。実はフェンスの設置には、昨年度以前の体験講座／養成講座の受講修了生らも、複数人が参加していました。



早速門の中に入りましたが、いきなり目の前に飛び込んできたのは、高さ 20 cm 以上、笠は手のひらくらいある大きなキノコの群集で、一面に広がっていました。マントカラカサタケのようです。



左下の写真は樹木についた傷について上野さんがご説明されている様子です。クマなどによるものではなく、恐らくシカやイノシシによるものと話されていました。傷の高さ的にシカの可能性が高いと考えられます。右下の写真は、シカにより葉先を食べられた痕跡の残るネザサの様子です。



左の写真のように、道沿いに更に内部をフェンスに囲われた場所がありました。このフェンスは 3 月に完成した、外周を覆う防鹿柵よりも以前に設置されたもので、フェンスの中には国蝶オオムラサキの幼虫の食樹であるエノキなどが植栽されています。受講生は興味深く観察していました。

更に登ると、行燈岩というスポットのある、眺望のいい丘の上に出ました。
奥のほうには大阪平野が見渡せます。



下の写真中央にそびえるのはナラガシワの大木です。
ナラガシワが樹林を形成しているのは珍しいのですが、この地域ではその景観を見ることができます。



下の写真は、そのことを上野さんが説明している様子です。

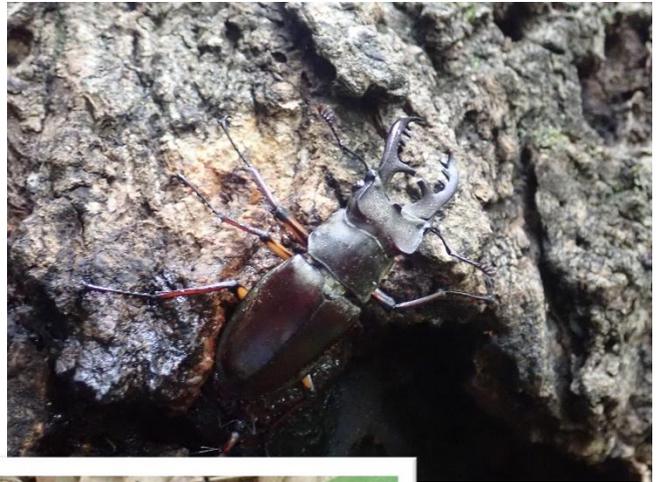


「ナラガシワ」と柏餅を包む「カシワ」の葉の見分け方としては、カシワの葉柄(所謂付け根の軸)の方が極めて短いので、そこで違いが分かります。

左下の写真はオオセンチコガネで、哺乳類の生息が多い地域で確認できることが多い糞虫です。地域によって色彩に変異があり、目で見て分かりやすい多様性があると言えます。緑色や青色になったりもしますが、ここ三草山では赤色が多いです。右下の写真はミヤマクワガタで、沢沿いの山間部などに多い種類なのですが、ブナが生えるような高山にまで生息しています。



シカの糞



左の写真はサツマヒメカマキリ。聞き慣れない名前ですが、受講生が教えてくれました。

その受講生が何やら撮影中です。キロスズメバチがナナフシを捕食していたのでした。ハチは獲物に夢中の時は接近しても警戒してこないもので、接写することが可能なのです。受講生たちはスズメバチの習性を1つ学ぶ事ができました。



左下の写真はヨウシュヤマゴボウという、全体にわたって毒がある北アメリカ原産の外来種。物凄く繁茂していたようですが、葉の部分が恐らく森林組合？によって刈り取られていたということもあり、駆除の前提で剪定ばさみを用意していましたが、作業はせずにその場をあとにしました。右下の写真も北アメリカ原産のダンドボロギクという外来種で埋め尽くされた道を下る様子です。この植物は若い葉と茎は食用にもなるとのことですが、開けた空間ができると、もの凄い繁殖力で一気に広がり覆いつくし、日本の生態系に悪影響を及ぼします。こちら時間都合で念入りな駆除は行わず、今回は軽く抜き去る程度の処理で済ませました。



林道を拠点に向かい歩きましたが、道路わきに右下のような連続した花崗岩を見つけました。上野さん曰く、昔三草山に張り巡らされていた街道が関係している歴史的なものではないかとのことでした。



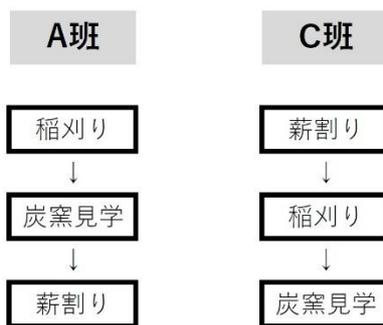
さて、拠点の東屋に戻ってきて昼食の様子です。この直後に雨が降りましたが幸運にもちょうど休憩中だったので、午後の講座開始に15分程度の遅れは出たものの、難を逃れました。



休憩中には、近くの山林内に設置されたトレイルカメラの映像を見られるように、用意していたパソコンを開きました(写真左下)。
 ご用意いただいた外部接続のハードディスクにはかなり沢山の映像データが入っており、シカやイノシシ、テンやイタチといった種類がセンサーによって複数回撮影されているのが見られました。
 そのことにより、受講生はこの地の哺乳類の多さを実感できました。
 右下の写真は、この後の活動で使う斧の新品の柄を取り付けている様子です。



さて、午後からは下の図のように2班に別れての活動が始まります。



まずはまだ2班が纏まっている間に、拠点にある機材の使用方法を学びました。
 左下の写真は油圧による薪割り機を操作している様子で、レバーを下げると油圧でバーが移動、その先にある三角に尖った金属部に薪が押されていき、結果薪が真っ二つに割れる仕組みです。
 右下の写真は、金属棒に立てかけた薪をカケヤ(ハンマー)で打ち付け、中にある金属の突起に当たった薪が衝撃で半分に割れていく仕組みを教わっている様子です。



それでは早速、そのまま薪割りに挑んだC班の様子から見ていきましょう。

まず、道具を使ってのすべての活動には、道具が滑り落ちないようにラバー付きの軍手を装着しています。

下の写真では、機械のレバーを押し下げるとゆっくり動作するので、作業者は薪割りにするにあたり安全に作業を進めることができました。

はじめて見る機械と、ジワジワと確実に割れる薪に、受講生の視線が集まっていました。



下の写真は、薪を機械や斧などで割るために適度な長さにノコギリで切っている様子です。実は2年ほど前に台風で斜面から敷地内に倒れてきたクヌギの大木を使っています。



左や下の写真はカケヤで薪を割っている様子です。この道具はなかなか重たく、うまく振り下ろして打ち付けるのが少し難しいようです。



同じ頃、A班は活動地の坂を下り、下段にある田んぼに移動していました。

右下は途中で見かけたクヌギの葉についていた毛虫の集団。

後に調べたところ、ツマキシヤチホコという聞き慣れない蛾の幼虫で、75mmほどにもなり、クヌギ、アベマキ、ナラ、カシなどの葉を食べるようです。

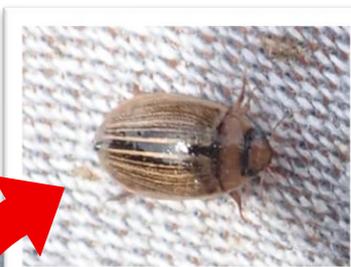


下の写真は、田んぼに到着して稲刈りの手法をお聞きしている様子です。

農薬使用のかなり少ない田んぼとのことで、稲穂のボリュームが少ないのと、雑草が少し多いのが印象的でした。

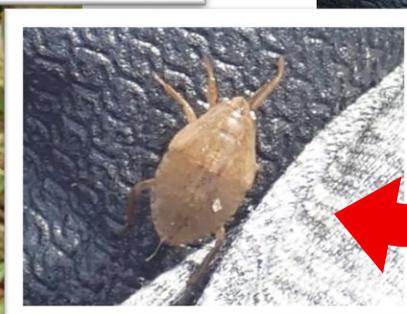


僅かに残る水たまりの中で、何か水生昆虫を見つけたようです！



写真左:コシマゲンゴロウ
➡オサムシの仲間

写真下:コオイムシ若齢個体
➡カメムシの仲間



下の写真は作業開始20分ほど経過したときの様子です。
だいぶ刈り進めてきました。



刈った稲穂は束にして置いていましたが、それを藁で束ねて括るための方法を教わりました。



また生きものを探していたところ、コオイムシを発見！



そして！左の写真はなんと体長2mm程のチビゲンゴロウという種類で、これを泥の中から発見するのはかなりの至難の業です。



よく発見できたと感心するとともに、生物多様性豊かなこの土地で次々に見つかる水生昆虫に、スタッフも感動していました。

次は稲穂を干す昔ながらの「稲架（はさ）掛け」をするための「稲木」の設置です。
長い竹を用意し、支柱を立てて準備しますが、その方法も教わりました。
途中でC班とも合流し、一緒に作業を進めました。



下の写真のように、束ねた稲穂を端に詰めて順番に稲木にかけていきます。
これら全て初めての体験に、受講生は楽しみながら学習できました。



途中で A 班は次の活動、炭窯見学に進みます。

猪名川町～能勢町～高槻市あたりにかけて、北摂地方と呼ばれるこの地域はその昔、池田炭(菊炭)と呼ばれる木炭の生産や流通で有名な場所でした。

菊炭はお殿様への献上品として納められていたそうで、その見た目が菊の花のように美しいこと、茶の湯を沸かすのに最適な温度で燃焼することから、茶席に使われていたようです。

下の写真では、奥に天井の崩落した炭窯跡の石積みが見られます。

上野さん曰く、台場クヌギから切り出した原木を山の下に運ぶより、炭にしてから山を下った方が軽くて作業効率がいいとのこと、昔は山の上の各地にこういった炭窯が点在していたそうです。



説明を聞いた後、拠点に戻って C 班同様に、油圧式機械、斧、カケヤによる薪割りを体験しました。





この時、廃材の周辺で下の写真のようなウバタマコメツキという甲虫を発見しました。「コメツキムシ科」に属していますが、日本ではこの仲間は 800 種類もいるようです。



また下の写真のように、タマムシのかなり貴重な産卵シーンも観察できました！乾燥して亀裂の入ったクヌギの丸太の隙間にお尻を伸ばして差し込み、卵を生んでいます。



さて、その頃 C 班は A 班が行っていた稲刈りの続きを教わっていました。
稲穂を藁で束ねてはさ掛けをしていきます。



人海戦術により下の写真のように広範囲の稲穂を刈る事ができました。

受講生は、農薬使用が少なくなると雑草がたくさん生えて稲穂のボリュームが少なくなる半面、普段見かけない水生昆虫が多く見られるようになることを、今回の稲刈りで実感できました。



そして拠点に戻る途中、C班はA班同様に上野さんから炭窯の説明を受けました。



活動拠点に戻ってきました。
アンケートを記入し始める者もいましたが、一旦全員で記念撮影を撮ることに。
良い思い出ができました。



そしていつものふり返りの様子です。
皆で今日学んだことの感想などを共有しました。
ここで出た感想の一部は後程ご紹介します。



その後身支度を整え、ご協力頂いた能勢みどりすくらぶの皆さんにお礼を言ったあと、活動地を後にしました。

左下の写真のように、バス停車位置まではずっと下り道で 15 分ほどなので、帰りは楽でした。そして待機していたバスに乗り込み(写真右下)、そこから 10 分ほどのところにある、地元の特産品などを取り扱う道の駅に立ち寄りました。

閉店間際なので、野菜などは例年通り殆ど売り切れていましたが、受講生たちは販売されている菊炭や特産品を見る事ができました。

受講生たちはおみやげを購入するなどして、出発時刻まで思い思いに過ごしていました。



さて、再度バスに乗り1時間ほどで解散場所に到着しました。

最後に、帰宅後にマダニが体についていないか、よく見ておくようにとお伝えし、次回の淀川城北ワンドでの講座開催を楽しみに解散しました。

マダニが今年多いという話を事前にキャッチしていましたが、今回は受講生からのマダニ被害の報告はありませんでした。

シカとイノシシとマダニとオオセンチコガネ(いわゆるフンコロガシ)はセットであると講座内では何度もお話をしましたが、野生動物の多い地区は、それに依存する昆虫も沢山生息していますので、活動後はこういったことにも注意が必要です。

さて、アンケートでは、参加した受講生全員から参加満足度に対する高い評価を頂きました。記述内容例としては以下のようなものがありました。

・鹿が森に入って背丈程の草本を食べて枯渇されてしまう原因として、人が入らない事や雪が降らないことが関係していると知って、人間と地球環境全体が歴史の中で、変化してしまっていることを実感しました。その点からも、人間活動と気候変動の問題点を1人1人が考えて環境保全につなげていくことが大切だと思い、興味関心が深まりました。三草山の管理に携わっている方々が、鹿侵入禁止のための柵を工夫していたり、笹を生やすところと生やさないとこで区別していることを知って山を大切に作る人の工夫、思いを学ぶことができました！

・肉体労働が多く、普段体をきたえていない自分にはきつい活動でしたが、自然の中で体を動かし生物を観察できるのはとても気持ちのいい事だと感じました。なので保全活動にすべての時間を使うことは無理だと思いますが、たまには参加できればと考えました。

・環境保全に関心が深まりました!!特に、里山地域の、次世代へのつなぎ方(?)について気になりました。もっと若い世代が多く、こういう活動に参加すれば、より良いものになると思う。今日の活動で、農作業の大変さを再確認したけれど、それと同時に里山地域の人の温かさにもふれられて嬉しかった。

以上のような回答が多数寄せられ、外来種対策や、獣害対策の必要な里山の環境保全、そこに集う人たちの温かみについて理解し感じられた講座となりました。

今後の活動参加に繋がるような回答内容もあり、事務局としても大きく期待しています。

・大学の授業で能勢の里山について以前に学んだことがあったが、実際に講座で現地の方から説明を聞いて、より深く学ぶことができ、興味関心が深まった。また、農作業体験を通して、農業の大変さや作物のありがたみを感じた。

また、上記のような記述をたまに感想で耳にすることがあるのですが、当連続講座は、大学などでの授業のステップアップをサポートしている結果となっているようです。

昨年は当連続講座の終了後に開催されたここ三草山での防鹿柵設置イベントでは、受講修了生に加えて大学の友人を誘って参加するなどの波及効果により、多くの方にご参加いただきました。今年度中にも、引き続き防鹿柵設置の動きが出ており、受講生の皆さん、受講修了生の皆さんに広報予定ですので、ぜひご参加いただけたらと思います。

またこの地で皆さんと活動できるのを楽しみにしております。